

多摩区におけるソーシャルデザインセンターの 今後のあり方を考える

日時：令和4年8月28日(日)

場所：多摩区役所11階レストラン、会議室

1

地域デザイン会議について

【会議の概要】

- 区民の参加と協働によって、地域課題の解決を目指すことを目的とした区民会議を、より多くの区民が関わり参加しやすい機会を拡充するためにリニューアル
- 令和5年度までを試行期間とし、各区役所の創意工夫によって様々なテーマ・形式で実施

【会議の結果】

次の事項に留意し、課題解決の取組につなげる。

- 多様な主体との連携又は協働による解決を目指す
- 市・区の事業として市民参加によって解決を目指す
- 地域の自主的な取組による解決を目指す

多摩区地域デザイン会議について

【今回のテーマ】

多摩区におけるソーシャルデザインセンターの 今後のあり方を考える

多摩区におけるソーシャルデザインセンターは、川崎市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」における区域レベルの取組として、地域で活動する団体の支援等を行うため、令和2年3月、区民主体の運営組織によって多摩区総合庁舎1階に開設されました。

開設に当たり市と運営組織が締結した協定の期間が、令和4年度末をもって終了することから、これまでのソーシャルデザインセンターに係る取組を振り返りながら、今後の望ましいあり方について意見交換を行います。

3

本日の会議の進め方について

- 1 開会 (13:30)
- 2 地域デザイン会議の概要、本日のテーマ、進め方について (13:32)
- 3 中間とりまとめの内容説明 (13:35)
多摩区におけるソーシャルデザインセンターに係るこれまでの取組の説明
(各グループに移動)
- 4 グループでの意見交換 (14:20) ※途中休憩あり
※グループ①：1101会議室、グループ②：1102会議室、グループ③：1103会議室、
グループ④：1104会議室、グループ⑤：レストラン
(発表会場・レストランに移動)
- 5 各グループ発表 (16:10)
- 6 閉会 (16:30)

4

多摩区におけるソーシャルデザインセンターに係る取組の評価・検証に関する中間とりまとめ

- 1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過
- 2 多摩区におけるSDCに係る取組に関する評価・検証の実施について
- 3 これまでの多摩区における取組
- 4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識
- 5 令和5(2023)年度以降の取組推進に向けた現段階での多摩区役所としての考え方
- 6 今後の評価・検証作業について



本編



概要版

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

H31.3月 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定

区域レベルの新たなしくみとして、地域での様々な活動や価値を生み出し、社会変革(ソーシャルイノベーション)を生み出す基盤(プラットフォーム)となる「ソーシャルデザインセンター」(以下「SDC」)を創出する。

⇒「区の独自性を踏まえて検討」、「市民主体の運営を理想」、「自主財源による運営を見据えたもの」とすることが望ましい

H31.4月 これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会(以下「検討会」)の設置

R1.11月 多摩区におけるSDC開設案(以下「開設案」)を策定

R1.12月 検討会委員を中心に運営組織を設立。市と協定を締結

R2. 3月 多摩区総合庁舎1階(喫茶室跡)に「多摩区ソーシャルデザインセンター」(以下「多摩SDC」)開設

R2. 3月以降 開設案の実現を目指し、運営組織による自主的な取組を推進
多摩区役所は運営組織の主体的な取組に対して支援を実施

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

【参考】「基本的考え方」について

川崎市 これからのコミュニティ施策の基本的考え方 平成31(2019)年3月策定

【内容】

- 第1章 策定の目的と背景
- 第2章 川崎市におけるコミュニティの現状と課題
- 第3章 基本理念と今後の方向性
- 第4章 「新たなしくみ」の構築に向けた今後の取組
- 第5章 市民創発に呼応する行政のあり方
- 第6章 これからの検討課題と今後の進め方



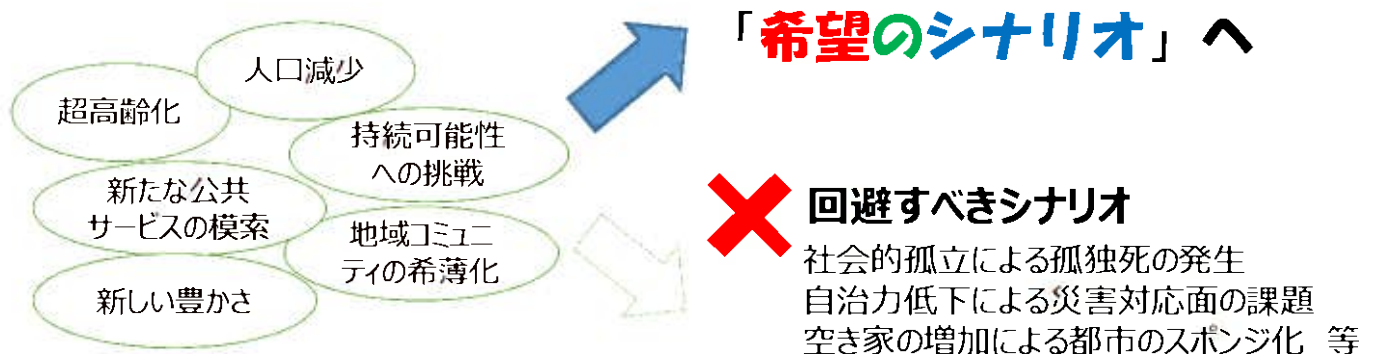
7

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

【参考】「基本的考え方」について

●策定の目的

暮らしを取り巻く社会環境の変化を見据え、市民一人ひとりが多様なつながりをつくり、自分らしく幸せに暮らせる地域社会「**希望のシナリオ**」の**実現**をめざす。

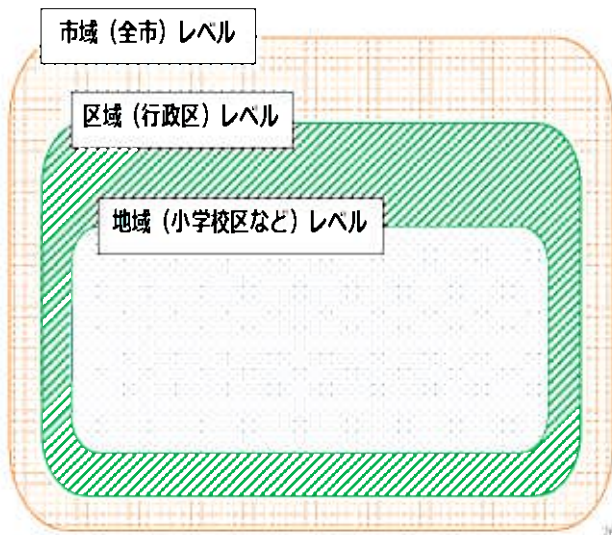


8

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

【参考】「基本的考え方」について

● 3層制による取組の推進 ～希望のシナリオ実現に向けて～



● 地域レベルの取組

⇒誰もが気軽に集え、多様なつながりを育む地域の居場所「まちのひろば」の創出

● 区域レベルの取組

⇒地域レベルの活動等を下支えしつつ、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革を促す基盤「**ソーシャルデザインセンター**」を新たなしくみとして創出

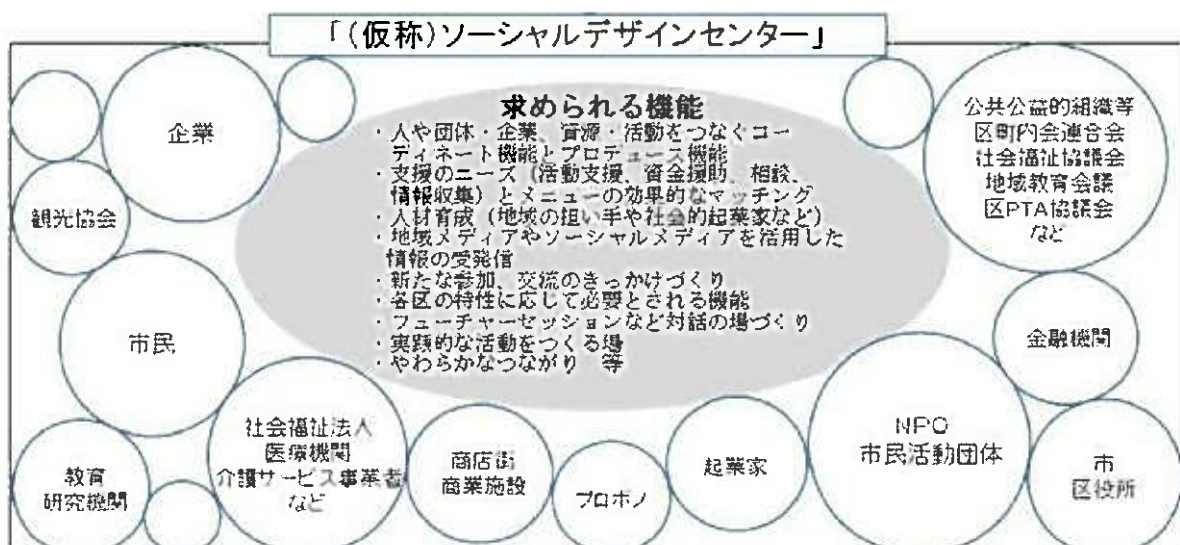
● 市域レベルの取組

⇒市内中間支援組織の連携強化と効率的・効果的な支援体制の構築

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

【参考】「基本的考え方」について

地域での新しい活動や価値を生み出し、社会変革を促す基盤



1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における取組経過

【参考】「基本的考え方」について

「ソーシャルデザインセンター」の形態

- 7区横並びではなく、**区の独自性を踏まえて検討**する。

「ソーシャルデザインセンター」への行政の関わり方

- 旧来の手法である行政事務局の設置や、いわゆる官製NPOの設立といった行政主導の関わり方はせず、**市民主体の運営**を理想とする。
- 運営予算についても、将来的には自主財源による運営を見据えたものとする
ことが望ましい。



検討会において、多摩区らしい「ソーシャルデザインセンター」の創出に向けた検討へ

2 多摩区におけるSDCに係る取組に関する評価・検証の実施

(1) 評価・検証の実施

開設案及び協定に基づき、これまでの多摩区におけるSDCの取組を振り返りながら、**令和5年度以降のより良い取組のあり方を検討**するための評価・検証を**多摩区役所として実施**する。

(2) 評価・検証の概ねの進め方

ア これまでの多摩区におけるSDCに係る一連の取組について、地域デザイン会議等での区民意見等を踏まえ、主に**開設案で掲げる理念の実現にどれだけ寄与できたのかを評価**

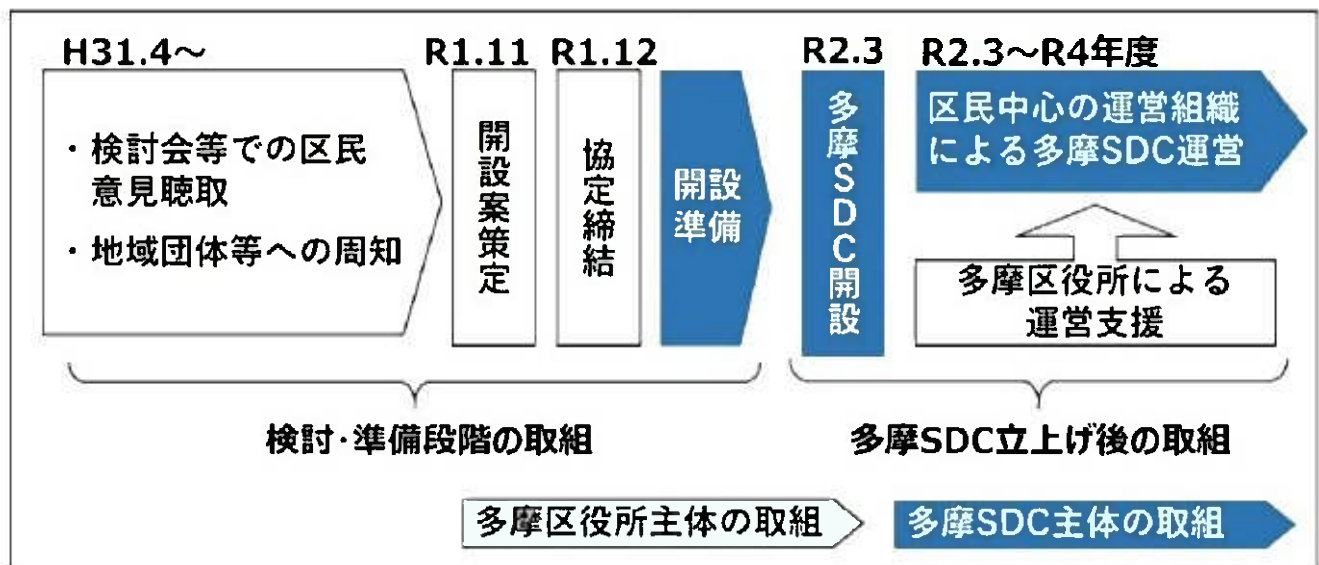
イ これまでの取組の現状・課題を洗い出し、**令和5年度以降におけるより良い取組のあり方を模索**

ウ 評価・検証結果は、「**(仮称)多摩区におけるSDCの今後の取組のあり方**」（以下「今後の取組のあり方」）として、**令和4年11月末を目途に取りまとめる**。

エ 市民文化局が令和4年度に実施する**基本的考え方に基づく取組の検証とも連携**し作業を推進

2 多摩区におけるSDCに係る取組に関する評価・検証の実施

評価・検証の対象とするこれまでの取組



13

2 多摩区におけるSDCに係る取組に関する評価・検証の実施

今後のスケジュール

8月	9月	10月	11月	12月	R5.1~3月	4月以降
「中間とりまとめ」作成	地域デザイン会議	インターネット等を通じた「中間とりまとめ」に対する意見募集	評価・検証結果を含めた「今後の取組のあり方」の取りまとめ	「今後の取組のあり方」公表	「今後の取組のあり方」を踏まえた次年度の取組に向けた準備・調整、手続きの実施	多摩区におけるSDCの取組推進

14

3 これまでの多摩区における取組 (1) 開設に向けた検討・準備段階の主な取組

(1) 開設に向けた検討・準備段階の主な取組

ア 検討会の開催 平成31年4月から令和元年11月にかけて計12回開催(委員33名)

イ 開設案の策定 多摩区における望ましいSDCの骨格を示すものとして、令和元年11月に策定

(ア) 多摩区におけるSDCの開設理念

みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる

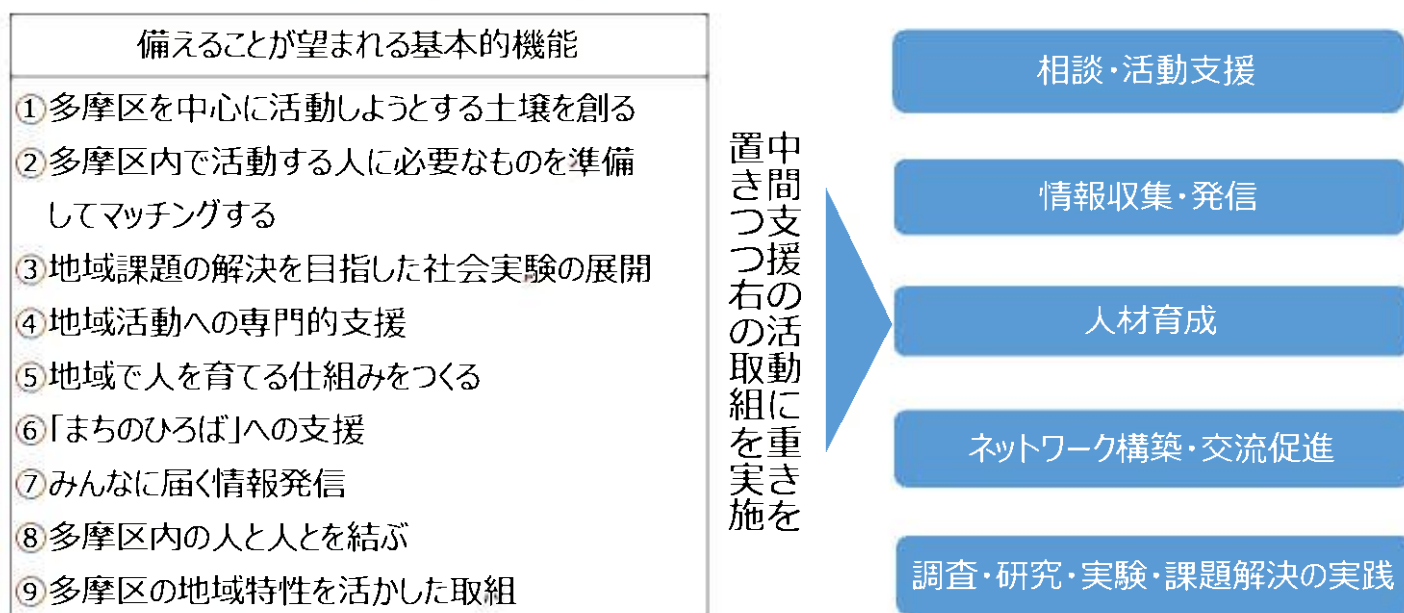
**～多様な主体と多世代が支え合い、多様な資源を活用し、
区民主体の持続可能なまちづくり～**

15

3 これまでの多摩区における取組 (1) 開設に向けた検討・準備段階の主な取組

イ 開設案の策定

(イ) SDCの基本的機能と具体的な取組



16

3 これまでの多摩区における取組 (1) 開設に向けた検討・準備段階の主な取組

イ 開設案の策定

(ウ) 開設場所 多摩区総合庁舎 1 階の喫茶室跡地に開設することが望ましい。

(エ) SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について

検討会委員を中心に新たに立ち上げる運営組織によるSDC開設を目指す。

運営組織に対する支援は、予め期間を設定（令和 4 年度まで）して行う。

支援期間内の取組は、評価・検証を行い、支援期間以降のSDCのあり方を改めて模索していく。

ウ 運営組織の立上げ（組織名称：多摩区ソーシャルデザインセンター）

検討会委員のうち有志の13名により、令和元年12月に任意団体による運営組織の立上げ

エ 協定の締結（協定期間：令和 5 年 3 月 31 日まで）

開設案を踏まえ、SDCの運営が適切に行われることを目的として、市と運営組織において締結

オ 多摩SDC開設までの準備

運営組織と多摩区役所による打合せを概ね週 1 回開催し、開設に向けた検討・準備を推進

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(2) 多摩SDC開設以降の取組

ア 運営組織による取組

(ア) 多摩SDCの開設（令和2年3月16日）

開設場所：多摩区総合庁舎 1 階 開所時間：平日10～16時

(イ) 多摩SDCの管理運営

a 事務所の管理運営 b 事務所への常駐スタッフの配置 c 役員会、全体会議、総会の開催

d 運営組織体制の強化

・運営組織の法人化「一般社団法人多摩区ソーシャルデザインセンター」(令和2年8月31日)

・運営組織メンバーの拡充（令和4年 4 月時点で55名。大学生など多くの若い世代が参加）

e 運営に係る予算

協定に基づき市から補助金を交付。また、運営組織が収入確保に向けた様々な取組を実施

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(ウ) 相談・活動支援

a 地域活動に関する相談受付

事務所や電子メールで地域活動に関する相談を受け付け。

【寄せられた相談等の件数内訳（合計延べ207件）】

イベント等の開催支援：19件 活動場所8件 人的支援：16件
活動資金：12件 広報協力：11件 活動のノウハウ：11件
SDCの活動に関する問合せ：75件 その他の相談：55件

【相談への対応事例】

・若年性認知症カフェの開催支援

主催団体からの相談を受け、多摩SDCの事務所をカフェの会場として提供。多摩SDCのスタッフにより準備、運営などへの支援も実施

・区内障害者団体等の作品の展示・販売支援

「パサージュ・たま」出展団体からの相談を受け、多摩SDC事務所で作品の常設展示・販売を実施。多摩SDCスタッフが販売業務を担う形で支援



区内障害者団体等の作品の
常設展示・販売支援

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(ウ) 相談・活動支援

b 多摩区地域コミュニティ活動支援事業（多摩区まちのひろば活動支援資金）

地域活動を行う団体・法人が、地域の新たなコミュニティづくりや課題解決につながる「事業」を行う場合に、その資金の一部を多摩SDCが支援。令和4年度からは、多摩区役所が実施してきた市民提案型事業（磨けば光る多摩事業）について、本事業に統合する形で事業の再構築を推進

【令和2年度交付実績（6団体）】

子ども食堂を広げたい（10万円）、本を好きな子を育てよう（10万円）、
地域の子どもたち向けに英語教室を開く（5万円）など

【令和3年度交付実績（3団体）】

地域活性化とコミュニティの再構築（10万円）、区民参加型アートプロジェクト（10万円）など

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(ウ) 相談・活動支援

c 地域人材の掘り起こし、人材バンク構築に向けた取組

地域人材に係る情報登録の受付や事務所でのイベントを通じた人材発掘を実施

【地域人材の情報登録】 個人登録：94件、団体登録：17件

【事務所でのイベントを通じた人材発掘】 たまミュージックヴィレッジの開催を通じた人材登録：50件

d 市や多摩区役所が実施する事業等への連携・協力

- ・生田出張所オープニングイベント「地域づくり講演会『コロナ禍でのつながりづくり』」への協力
- ・高齢者を対象としたスマホ・Zoom利用講座の開催支援
- ・「まちのひろばフェス2021」の開催協力
- ・多摩区制50周年記念公募企画事業の企画立案等に係る助言等の支援 など

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(エ) 情報収集・発信

各種SNS(Facebook、Twitter、Instagram)、
ホームページ、広報紙・チラシの発行、
タウン紙を通じた情報発信、新成人に向けた多摩SDCの
取組PR、地域団体の会議等における情報発信など



新成人に向けた取組PR
(登戸駅ハゲストリアンゲツキ)

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(オ) ネットワーク構築・交流促進

a 事務所を活用したまちのひろば創出、交流促進に向けた取組

- ・子ども食堂の実施及び開設支援：子育て家庭への支援を目的に月1回開催。また、多摩SDCの立上げ支援により多摩区内で5か所の子ども食堂が新たに開設
- ・たまミュージックヴィレッジの開催：ミュージシャンの発表、地域交流の場として月1回開催
- ・学生カフェの開催：概ね週1回、多摩SDCが主催・協力するイベント等の企画や打合せなど
- ・まっち楽習塾の開催：子どもの居場所づくり等のため、主に小学生を対象に期間限定で開催
- ・他団体による交流イベント等の開催支援（若年性認知症カフェ、たまアート縁日） など

b 地域の交流促進に向けたイベントの開催及び地域イベントへの参加・協力

登戸・たまがわマルシェや登戸・たまがわうんどうかい」の開催、「生田緑地⇄多摩川ピクニックラリー」や「登戸まちなか遊縁地」、「川崎北部」食の祭典in生田緑地への出店・運営協力など

23

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(カ) 調査・研究・実験・課題解決の実践

市の実証実験への協力として、ウォーターサーバー導入や多摩川河川敷の利活用に向けた取組への協力

(キ) 人材育成

a 教養講座等の実施 区民を対象とした各種講座の開催

「歴史的建造物・古民家再生を生かしたまちづくりの先進事例を学ぶ」、「0～6歳ママ・パパ集まれ!! こども想いのくつえらび勉強会」、家族みんなで子育てしよう! 「パパの戦力化計画」など

b 運営組織スタッフの人材育成に向けた取組

- ・多摩SDCの新規スタッフ等を対象としたコミュニティ施策や地域包括ケアシステムの勉強会
- ・子ども食堂でのボランティア希望者を対象とした説明会
- ・学生カフェにおける様々なテーマによる勉強会 など



学生カフェの様子

24

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

(ク) その他の取組

a 小学校への出張授業の取組

東生田小学校（令和3年9月17日、令和4年7月13日）

b 収入確保に向けた取組

- ・地域の店舗と連携した事務所での物販
- ・日本民家園の古民家を活用した古民家カフェの営業
- ・地域のイベント等への出店 など



小学校への出張授業
（オンライン）

c 活動報告会の開催

区民への報告会（令和3年3月14日、令和4年3月13日）

3 これまでの多摩区における取組 (2) 多摩SDC開設以降の取組

イ 多摩区役所における支援及び多摩SDCと連携した取組

(ア) 多摩SDCの取組に対する支援等の検討・実施

a 運営費補助金の交付

b 多摩SDCの主体的な取組に対する効果的な伴走支援の実施

市政だより多摩区版等での広報の協力、地区カルテ等の情報共有、多摩SDCが実施する勉強会への協力、施設使用、物品の貸し出し等による支援

(イ) コミュニティ施策推進に係る検討体制の構築：多摩区役所内11部署による検討部会の設置

(ウ) 区におけるコミュニティ施策の再構築に向けた取組：区における市民提案型事業の再構築の推進

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(1) 評価・検証の実施

これまでの多摩区におけるSDCに係る取組について、主に開設案で掲げる理念の実現にどれだけ寄与できたのかを検証するに当たり、次のア～ケの視点により評価していく。

- ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか
- イ どの位の人が取組に関わり、又は参加したのか
- ウ まちのひろばを地域にどのくらい創出できたのか
- エ 地域からの理解と信頼、協力を得られているか
- オ どのような地域課題の解決に寄与したのか
- カ 自主・自立の運営を行うことができているのか
- キ 開設場所は適当か
- ク 区の支援等の取組は適切か
- ケ 開設案の理念の実現にどれだけ寄与できたのか

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

機能①：多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

〈主な取組〉 学生カフェの開催、小学校へ出張授業、子ども食堂の見学ツアーなど

〈現状・今後に向けて〉

- 学生カフェの開催など若い世代向けの取組を通して、多くの大学生等が多摩SDC運営組織のメンバーやボランティアとして、地域での活動に参加(メンバーは開設当初の13名から55名に増員 ※令和4年4月時点)
- 様々な立場、多世代の方に、地域活動に興味を持ってもらえる環境づくり、活動する人の夢の実現を様々な段階で支援する取組については、具体的な取組の実践や、相談・活動支援の充実・強化が望まれる。

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

機能②：多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

〈主な取組〉多摩区地域コミュニティ活動支援事業、フードドライブへの協力、活動したい人と活動の場のマッチングなど
〈現状・今後に向けて〉

○相談・活動支援の取組を通じて、ヒトやモノ、活動場所のマッチングの取組が行われている。

○今後、マッチングの機能を拡充していくために、情報収集の強化や活動する地域の拡大、地域の団体・企業等との一層の関係構築を図っていくことが望まれる。

機能③：地域課題の解決を目指した社会実験の展開

〈主な取組〉ウォーターサーバー導入への協力、市や小田急電鉄による多摩川河川敷利活用の取組への協力など
〈現状・今後に向けて〉

○市等が実施する社会実験への協力が行われている。

○行政をはじめ、企業・大学・地域団体など様々な主体と連携した取組を推進していくことが望まれる。

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

機能④：地域活動への専門的支援

〈主な取組〉地域活動に関する相談受付、創業支援の相談に対する専門機関の紹介

〈現状・今後に向けて〉

○地域活動に関する相談を受け付け、相談内容に応じて専門機関への紹介などが行われている。

○今後、相談内容やニーズに応じて迅速かつ的確に専門家へつなげられるような、運営組織としての一層のコーディネート機能の強化と、知識・スキルを持つ多様な主体との関係構築を推進していくことが望まれる。

機能⑤：地域で人を育てる仕組みをつくる

〈主な取組〉大学生など若い世代の参画による多摩SDCの運営、学生カフェの開催、小学校への出張授業の取組など

〈現状・今後に向けて〉

○多くの大学生等が地域での活動を地域の方と実践していくことが人材育成の機会となっている。

○一方で、様々な立場、多世代の方が地域での活動に興味を持ってもらうとともに、地域活動へ参加しやすくなるような環境づくりを一層推進していくことで、地域の中で人を育てる仕組みづくりを構築していくことが望まれる。

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

機能⑥：まちのひろばへの支援

〈主な取組〉 子ども食堂の創出支援、若年性認知症カフェの開催支援、区内障害者団体等の作品の展示・販売支援など

〈現状・今後に向けて〉

○相談に応じて、地域の団体が実施する取組やイベント運営などに対する様々な支援が行われている。

○今後、支援の取組を一層推進していくため、地域の団体やまちのひろばについて、地域に出向いての情報収集や関係構築などの取組を強化するとともに、支援の取組を区全域に行き渡るよう拡充していくことが望まれる。

機能⑦：みんなに届く情報発信

〈主な取組〉 各種SNS等による情報発信、活動報告会の開催、新成人に向けた取組のPR、SDCつうしんの発行など

〈現状・今後に向けて〉

○各種SNS、地域団体の会合等での活動紹介、新成人に向けたPR活動など多様な手法で情報が発信されている。

○今後も、多様な手法でPRしていくとともに、本当に必要としている人に必要な情報を届けられるよう、地域の団体等との関係構築や情報収集を進め、ニーズに的確に対応した情報発信を行っていくことが望まれる。

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

機能⑧：多摩区内の人と人とを結ぶ

〈主な取組〉 地域の交流促進に向けたイベント(登戸・たまがわマルシェ等)、たまミュージックヴィレッジ、学生カフェの開催

〈現状・今後に向けて〉

○取組を通じて、地域の人と人の交流や多摩SDCと地域の団体等との顔の見える関係づくりが進められている。

○今後、地域の様々な団体や企業、大学など様々な立場で活動する団体や、多世代の人が横のつながりを広げることができるような取組を一層推進していくことが望まれる。

機能⑨：多摩区の地域特性を活かした取組

〈主な取組〉 地域資源を活用したイベントの開催(登戸・たまがわマルシェ等)・日本民家園の古民家を活用したカフェの運営など

〈現状・今後に向けて〉

○多摩区の貴重な資源を活用した取組が実施されている。

○今後も地域資源を効果的に活用した取組や、地域の実情・特性に応じた取組を推進していくことが望まれる。

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

○「相談・活動支援」、「ネットワーク構築・交流促進」を中心に、**開設案で掲げる分類に沿って具体的な取組を順次スモールスタートで実施し徐々に拡充**。これらの取組により**概ね9つの機能を実装**

○一方で、多摩区におけるSDCに求める主要な機能である中間支援の根幹をなす、機能②、機能⑥を拡充していくために、**地域の団体や企業、大学等との関係構築に向けた取組を強化し、ニーズに応じた支援の取組を一層拡充**していくことや、運営組織の体制の更なる強化が必要

備えることが望まれる基本的機能

- ①多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る
- ②多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする
- ③地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- ④地域活動への専門的支援
- ⑤地域で人を育てる仕組みをつくる
- ⑥「まちのひろば」への支援
- ⑦みんなに届く情報発信
- ⑧多摩区内の人と人とを結ぶ
- ⑨多摩区の地域特性を活かした取組

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

イ どの位の人が取組に関わり、又は参加したのか

○多摩SDCの運営組織のメンバーは、令和4年4月時点で55名となり**立上げ時から大幅に増員**されている。特に、**20代以下のメンバーが全体の約75%**を占めるなど、多くの若い世代が運営に参加

○一方で、**子育て世代のスタッフとしての参加は比較的少ない**状況であり、多世代によるまちづくりを推進していくためには、**一層幅広い世代の参加**が課題

○今後も、より多くの区民のまちづくりへの**参加の入り口となるような多様な取組を展開**していくことが必要

- ・子ども食堂：令和2年度～3年度の来場者数4,573人
- ・たまミュージックヴィレッジ：50団体の登録
- ・登戸・たまがわマルシェ：令和3年度約2,500人、令和4年度約50,000人来場
- ・登戸・たまがわうどんかい：親子202組参加



子ども食堂の様子



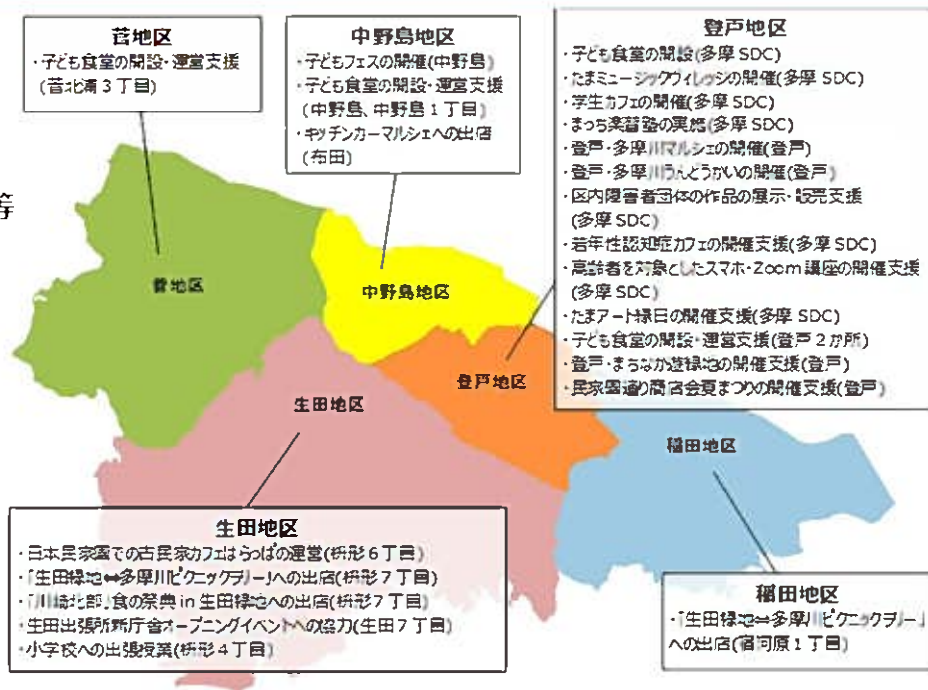
登戸・たまがわマルシェの様子

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ウ まちのひろばを地域にどのくらい創出できたのか

多摩SDCによる「まちのひろば」の創出又は地域団体等への支援等の主な取組



35

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ウ まちのひろばを地域にどのくらい創出できたのか

○これまでの取組を実施された地域ごとに見ると、各地区で多様な取組が展開されている。

○一方で、**多摩SDC事務所が立地する登戸地区に取組の多くが集中していることから、他の地区においても、地域団体等との関係づくり、新たなまちのひろばの創出など多様な取組を展開していくことが必要**

エ 地域からの理解と信頼、協力を得られているか

○様々なイベント等の開催や地域のイベント支援等を行うことで、**徐々に地域からの理解と信頼を得つつあり、開設当初に比べ多方面からの相談が寄せられている。**

○これまで**活動が展開されてこなかった地区をはじめ、地域団体との一層の関係構築の推進が必要**

36

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

オ どのような地域課題の解決に寄与したのか

- 川崎市総合計画・多摩区区計画のまちづくりの方向性で掲げる、うるおいやあたたかい地域のつながりを感じることができるまちづくりの推進に寄与。同計画で掲げる様々な分野の取組推進に寄与
- 今後、地域のニーズに応じた課題解決が実現できるよう多様な主体との一層の連携・協働が望まれる。

カ 自主・自立の運営を行うことができているのか

- マンパワーの面では、工夫により新たなメンバーを獲得しながら、自主・自立の運営が行われている。
- 財政面については、市が交付した補助金が収入の多くを占め、運営経費に充てられている。収入確保に向けた様々な取組が行われているが、現段階では運営経費を賄うだけの収入を生み出せていない。
将来的な自立を目指し、安定的な収入確保につながる新たな方策を見出していくことが必要

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

キ 開設場所は適当か

- 公共施設内に事務所を構えていることで、大学生スタッフ等も安心して活動できるほか、多摩SDCを知らない人からの信用も得られやすいなど、区民主体の活動を進めるに当たりメリットがある。
- 事務所(約46.5㎡)で打合せやイベントの準備等を行う際に手狭となる場合には、協定に基づき多摩区総合庁舎内の会議室を貸し出すなど、多摩区役所と連携した対応が図られている。
- 使用料の負担が生じるものの、現段階では現在の場所での運営を継続し、今後の運営等の状況に応じて、より利便性の高い場所への移転等を含め、望ましい開設場所のあり方を模索していくことが必要

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ク 区の支援等の取組は適切か

- 運営費補助金を交付(毎年逡減)するほか、部署間での情報共有・連携により、柔軟な支援を実施
- 多摩区役所が実施する事業に対して多摩SDCが協力したり、多摩区役所が担ってきた事業を多摩SDCの事業に統合する形で再構築するなど、互いの強みを活かした連携・協力関係を育んでいる。
- 互いの取組の効果的な推進のため、今後も密接な連携・協力体制を維持していくことが望ましく、多摩区役所としては、今後も多摩区におけるSDCの実情に応じた支援を行っていくことが必要

ケ 開設案の理念の実現にどれだけ寄与できたのか

- 様々な活動を通じて、若いメンバーと地域団体とのつながりが生まれ、つながりを活かしながら、人と人をつなぐ支援を実現するなど、中間支援機能の強化が図られている。
- 支援の実績を通じて地域からの相談も増えつつあり、つながりが更に広がるなど好循環が生まれている。
- 地域活動の経験がなかった多くの人の参加を得て、地域との関係を構築しながら、支援の取組を実施、拡充している状況から、開設案で掲げる理念に即した取組が推進されていると考えられる。

39

5 令和5年度以降の取組推進に向けた現段階での多摩区役所としての考え方

- コロナ禍で地域との関係構築が困難な状況の中、多摩SDCにより、開設案で掲げる理念の実現に向けた多様な取組が主体的に企画・実践され、地域差はあるが区民の理解と関心も徐々に得られつつある。
- 多くの若い世代の参加を得るなど、運営組織体制の強化も進められている。
- 令和5年度以降の多摩区におけるSDCのあり方については、多摩SDCが培ってきたノウハウや若い世代のパワーを継承し、他の世代の参加も得ながら多世代の運営体制を目指すとともに、地域との関係性やニーズに応じた中間支援の取組を更に拡充させ、区全域に成果が行き渡るような方策を、開設案策定以降の社会や地域の情勢(新型コロナウイルスの流行、デジタル化の進展等)、地域デザイン会議での区民意見などを踏まえながら検討していくことが望ましい。
- 運営面においては、マンパワーの面で自立した運営体制の一層の拡充を求めていくとともに、財政面での現状・課題を踏まえ、自立に向けた新たな方策や、区による支援のあり方を検討していく。

40

6 今後の評価・検証作業について

- これまでの実績や課題、地域デザイン会議における区民意見、市民文化局が実施する基本的考え方の検証内容、開設案策定以降の社会・地域の情勢などを考慮しながら、今後の評価・検証作業を進める。
- 中間とりまとめは、区HP、多摩区総合庁舎・生田出張所での閲覧による意見募集も行う。
(8/29～9/26)

ご清聴ありがとうございました。